

和歌山だよいい

平成20年 11月号
(2008)



貴志川線貴志駅のスーパー駅長「三毛猫たま」(写真左)の功績を称え、県では、「和歌山県勲功爵(わかやまけんくんこうしゃく)」を授与しました。(関連記事 P2)
上の写真は、貴志川線を走る、おもちゃ電車といちご電車

CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1
2. 和歌山県政トピックス… P2～P9
3. お知らせ…………… P10
4. ふるさと歳時記…………… P11



枇杷(びわ)の花

「県のお金は誰のものか」

県の財政はピンチです。特に当県が他県よりも、とてもひどいというわけではありませんが、私が知事に就任した時には、以前たくさんあった貯金が減ってしまい、あと2年半でゼロという状況でした。県の財政で貯金がなくなってしまうと、直ちに支出を切りつめざるを得なくなります。今まで出来ていたことがバタバタと出来なくなるのです。負担増も余儀なくされます。これではいかんと「新行財政改革推進プラン」をまとめ、何とか破綻しない筋道をつけました。この実行のためには、県庁の職員数も大いに減らして人件費をかせぎ、有利な資金調達もします。しかし、加えて県営施設や県民向けの助成金、さらには立派な仕事をしている団体への補助金もカットしなければなりません。その事務局案が発表され、これから結論を出すのですが、「これは残すよう、よろしく頼む」といった意見がたくさん来ています。皆心打たれるものばかりです。しかし全く手をつけないですませることはできません。一方、「この道だけは直してくれ何とかよろしく頼む」といった要望もたくさん寄せられています。私はものすごくたくさん「よろしく頼む」を承っております。これらの御要望は総てもっともなものだと思っています。本当はどんどんお金を使いたいと思いますが、肝心のお金は私のものではなく、県民の皆様のものであります。行革プランが実行できないと財政は破綻して県民の財布が壊れてしまいますし、県民の皆さんに県税アップをお願いするわけにもいきません。県知事は県民の大事なお金を、財布が壊れないよう取捨選択して使って行く義務があります。したがって、しばらくは「しぶちん」と言われても歯を食いしばって県民のお金を守るためがんばってまいります。



平成20年秋の叙勲及び危険業務従事叙勲並びに褒章伝達式で挨拶する仁坂知事

叙勲受章者32名、褒章受章者2名の計34名に勲記と勲章及び知事のお祝い状が伝達されました。

今月の和歌山県政トピックス

* 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

●貴志駅のスーパー駅長（猫の（たま））に「和歌山県勲功爵（わかやまでナイト）」の称号を授与

・和歌山電鐵貴志駅（紀の川市）のスーパー駅長「三毛猫たま」に、和歌山県勲功爵（わかやまでナイト）の称号を授与しました。

・今回の勲功爵は今年度新設した制度で、「たま」が第1号の受章であり、ふるさと和歌山を全国に広く発信した功績を称えるものです。

・10月28日に、仁坂知事が貴志駅に向いて称号の授与式を行い、表彰状とメダルを贈り、今後、たま駅長を「たま卿」と呼ぶことを宣言しました。

・称号授与式当日は、山田県議会副議長、中村紀の川市長、大橋和歌山市長の来賓をはじめ、多くのマスコミの方々やたまちゃんファンが訪れ大変賑わいました。

・知事は「和歌山の知名度を上げ、観光客を増やし、そして何よりも県民の心に明るさとおぼのとした温かみを与えてくれた「たまちゃん」に感謝の気持ちを表したい」と挨拶しました。

・小嶋和歌山電鐵(株)社長は「まさにたまげた招き猫」と喜んでいました。

*また、後日和歌山電鐵のホームページ上で、次のようなコメントをされています。

瞬間に一社員から幹部社員に、また貴族（和歌山県ですから「紀族」か？「木族」ですか？）の仲間入りで、まったく「サー大変」なたま様でスーパー駅長たま様も「ありがとニャン」といっていますので、この感謝の気持ちの猫語を翻訳してごあいさつにかえます。ありがとうございました！（一部抜粋）

・なお、メダルのデザインは、県の花である「梅」、県の木「うばめがし（備長炭の原料）」そして中央には金色に輝く県章をあしらっています。

・「たま卿」の貴志駅へは、JR和歌山駅から、和歌山電鐵貴志川線で約30分。沿線はのどかな風景が広がって心癒されます。



小山さん（たま卿の飼い主：左）・小嶋和歌山電鐵(株)社長・仁坂知事



表彰状

三毛猫たま様

あなたは和歌山電鐵貴志駅のスーパー駅長としてたくさんのお客様を無心に招き、故郷わかやまを全国に発信した功績はまことに顕著でありますここにその功労をたたえ「和歌山県勲功爵・わかやまでナイト」の称号を贈り、今後あなたを「たま卿」とお呼びしたいと思います。

平成二十年十月二十八日

和歌山県知事 仁坂 吉伸

● 東京・TBS赤坂サカスで首都圏観光・物産プロモーションイベントを開催！
 「うまいもん食べて感じて！！プレゼン和歌山」（プレス等招待デー）
 「和歌山だよ！！ほんまに“ええもん”“うまいもん”全員集合」（一般デー）

・10月24日（金）～26日（日）、東京で今話題の最新スポット「赤坂Sacas」を会場に、「食」を切口に本県ならではの郷土料理をマスコミや旅行エージェント、また首都圏在住の方々に実際に味わっていただきながら和歌山県の魅力を体験していただく観光・物産プロモーションイベントを開催しました。



・和歌山一色の会場には、この時期旬のみかん、柿をはじめ、梅干し、和歌山ラーメン、クエ鍋、マグロ丼、ク



ジラバーガー、紀州うめどり、めはり寿司、さんま寿司、イノブタ焼きしゃぶなど和歌山でしか味わえない逸品を集め、仁坂知事を先頭に、首都圏の皆さんに紀州・和歌山を大々的にPRしました。

・24日夜7時から行われたプレス等招待デーでは、首都圏のマスコミ、旅行エージェント関係者約300人の参加者を前に、仁坂知事が和歌山自慢と題したプレゼンテーションを行い、高野・熊野の世界遺産や東京から近い南紀白浜空港の利便性やパンダ日本一などの和歌山の観光や農・水産物をはじめ本県が誇る特産品の数々など、魅力ある和歌山県を精力的にトップセールスしました。

・また高野山真言宗青年教師会の有志の皆さんによる「声明」の公演が行われ、夜の赤坂の街が厳かな雰囲気にも包まれていました。約300人の参加者の皆さんも、紀州・和歌山の絶品・逸品に舌鼓を打ちながら、紀州・和歌山が持つすばらしい魅力に改めて関心を持たれ、堪能されていました。



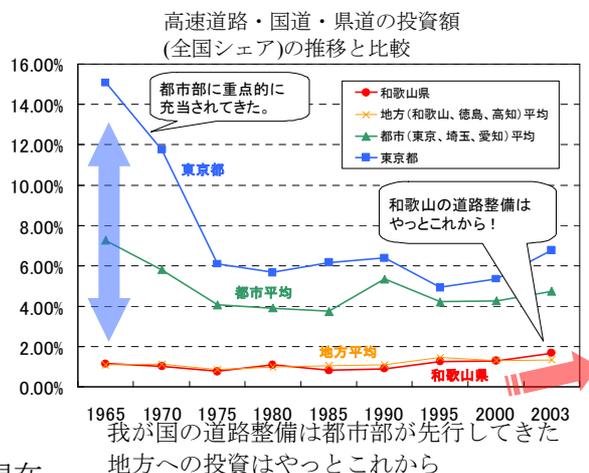
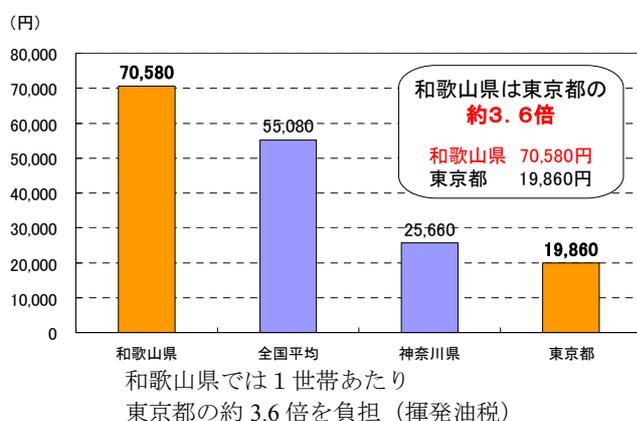
・翌25日～26日に行われた一般デーでは、県内各地の観光情報を提供する観光展の開催や南紀白浜温泉直送の足湯も設置され、会場には、二日間で予想を上回る約6万人を越える皆さんが訪れ、首都圏から和歌山への利便性や世界遺産、パンダなど魅力ある和歌山の観光資源に驚かれる一方、ずらり並んでいた特産品の数々が軒並み売り切れ続出となるなど大盛会のうちに終わることができました。

・このイベントを共催したTBS（株式会社東京放送）側からも、自治体イベントとしては、テレビの生中継の多さなど、これまでにない大規模イベントで、和歌山の底力に感心しましたと絶賛していただきました。

● 「道路は地方にとって将来のチャンスの保障」今後の道路整備についての本県の意見を取りまとめ、国土交通省に提案

・今般、道路特定財源が一般財源化されるにあたり、国において策定されたばかりの中期計画の改訂が必要となり、5月に閣議決定された「道路特定財源等に関する基本方針」では、「道路の中期計画は5年とし、最新の需要推計などを基礎に新たな整備計画を策定する」とされました。本県では新しい整備計画に地方の意見を十分取り入れてもらうため、国に対して以下のような提案や意見を提出しました。

- ・まず第1は、道路は地方にとって将来のチャンスの保障であるということです。
- ・将来のチャンスというのは企業立地など経済活動の基本的なチャンスや、例えば大規模地震などで生き延びる、そういうことも踏まえて、地方に暮らす人たちにもきちんとしたチャンス及び平等な権利の保障を与えるべきであります。具体的には、道路特定財源は、一人当たりになると、都会の住民より地方の住民の方が沢山支払っており、その支払った財源が必ずしも十分地方へ配分されていないというのが歴史的事実であります。地方がこれまでずいぶん貢献してきたのだから、今後は地方の道路整備にも財源を十分配分すべきであります。

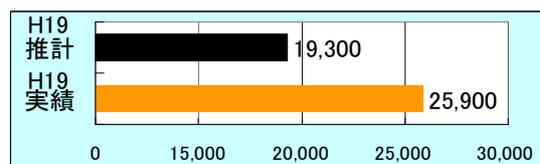


・第2の問題としては、道路を建設する時の現在の判断要素は、主として交通量であります。都会の人口の多いところが相対的に過大評価されて、田舎の方がずいぶん過小評価されているということです。

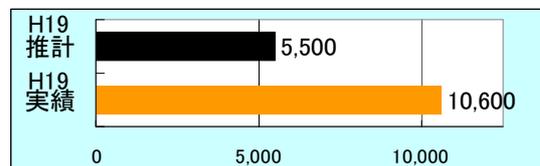
・現在、道路の建設に当たっては、便益と費用の両方向から算定して便益の方が大きいなら造ろうと判断され、その便益の算定は、走行時間短縮、走行経費減少、交通事故減少の3要素で計算されます。提案としては、現在の3要素だけではなく、もっといろいろな便益を加味して評価してはどうかということです。

・具体的には、災害対策、医療などの安全・安心や観光など地域振興等の要素、地域のポテンシャル特性等を踏まえた便益の評価が必要であり、これらの観点をまず第1に加味すべきと云うのが私たちの意見です。さらにこうしたことに加えて、過去の趨勢から補正をする必要があるというのがその次の主張です。具体的には、現在の将来交通量推計手法は、現行の交通量から自動車保有台数、開発計画、将来GDP、将来道路ネットワークを考慮して計算しますが、将来GDPや将来道路ネットワークは国全体の共通項であり、開発計画も今あるものだけで、道路ができてからそれを前提にして立ち上げた開発計画ではないのです。したがって、将来交通量というのは、今の田舎の元気のなさや云々を前提にして推計していることとなります。しかしながら、地方では道路整備によりチャンスが生まれ、それを活かすことによって、交通量の実績は当初の推計を大きく上回っています。こういうことをよく考えて新しい整備計画に本提案を十分活かしてもらいたいというのが我々の主張です。

○海南IC～有田IC (単位:台/日)



○みなべIC～南紀田辺IC (単位:台/日)



当初推計を上回る交通量

●「プレミアム和歌山」(和歌山県優良県産品推奨制度)のシンボルマーク決定！

・県では、本年度から「和歌山県優良県産品推奨制度」をスタートさせています。「プレミアム和歌山」という愛称で、安全・安心を基本に幅広い分野で優れた県産品を選んで、国内はもちろんのこと世界に向かってアピールしていこうというものです。

・製品の分野については、加工食品、伝統的工芸品、産業製品、農林水産物、さらには観光分野まで含め、県内での生産・製造はもちろん、主原材料も県内産を原則に、生産者のこだわりや安全を重視した「和歌山らしさ」「和歌山ならではの」の視点で選定し、「プレミアム和歌山」として売り出していくことにより、和歌山産のブランドイメージの確立を目指しています。

・今般、この制度や推奨品を一人でも多くの方に知っていただくために、シンボルマークを公募した結果、全国から多数の作品が寄せられ選考委員会の選考を経て、坂本竜司さん（長野県在住）の作品に決定しました。作品は、和歌山県章のシルエットの上に、和歌山の「わ」の文字をモチーフとした親しみやすいマークとなっています。

・推奨品の決定については、一柳アソシエイツの代表を務める一柳良雄審査委員長の下、審査会で現在審査中で、来る12月18日には大々的に発表される予定であります。

・「プレミアム和歌山」推奨品は、専門展示会や各種商談会などのイベントのほか、様々な機会を通じて、流通業界や一般消費者へのプロモーション活動を行い、県内・県外はもちろんのこと世界に向かって発信していきます。



●原油高騰や金融不安を受け、中小企業向け県融資制度に新たな制度を新設

・急激な資源高に苦しむ中小・零細企業等を支援するため、平成20年8月29日の政府・与党会議、経済対策閣僚会議合同会議において、「安心実現のための緊急総合対策」が決定されました。

・それにより、経営環境が悪化し、資金繰りに困っている中小企業者が利用することのできる信用保証制度（セーフティ保証）の対象業種が大幅に拡大され、10月31日から原材料価格高騰対応等緊急保証制度として運用されています。

・和歌山県では、この緊急保証制度を活用して、県内の中小企業者の皆さんが必要とする資金をより円滑に調達できるよう県中小企業制度融資を次のように見直しました。

・現在、制度に対する問い合わせが相次ぐなど、反響は非常に大きく、この制度を利用しただけで中小企業者の皆さんの経営安定化につなげていただければと考えております。（平成20年11月10日～平成22年3月31日）

①資金繰り安定資金（緊急対策枠の新設）

特徴：従来対応出来なかった借換資金の再借換が可能・返済期間を延長（10年に設定）

②経営資金（拡充）

特徴：運転資金の融資限度額の拡大（5,000万円 → 8,000万円）

月々の返済負担軽減（セーフティ枠の融資期間7年 → 10年に延長）

● 「企業の森」事業に2団体が参画し、42箇所に

- ・和歌山県が進める「企業の森」事業に新たに「済生会和歌山病院」と「上富田町水道協同組合」が参画することになり、10月29日に県庁で「森林保全・管理に係る協定の調印式」を行いました。
- ・「企業の森」は、県内で現在40箇所あり、今回の済生会和歌山病院と上富田町水道協同組合の参画で42箇所となります。和歌山県長期総合計画では、100箇所に増やす目標を掲げています。

● 「おいしさ+安心=和歌山」を本格的にPR ～わかやま農産物安心プラス事業～展開中！！

- ・中国製冷凍餃子の農薬汚染や乳製品・加工食品の「メラニン」混入事件、さらに外国産事故米問題など食の安全を脅かす想定外の食品事件・事故が起きています。
- ・このような消費者の「食」に対する不安が高まっている中、和歌山県では、消費者の方に安心して和歌山の農産物を選択して貰えるよう、全国に向け強くアピールする取組として、本年7月に「わかやま農産物安心プラス認証制度」を創設しました。
- ・この認証制度は、これまでも生産者が行っている生産履歴記帳などの安全確保への取組に加え、収穫前と出荷段階（選果場等）での農薬残留検査を行う生産者団体を認証することで、二重のチェック体制を確立し、より安心できる農産物を提供しようとするものです。
- ・二重の検査を認証の要件としているのは全国でも和歌山県だけです。
- ・本年度は、10団体25品目で認証取得を予定しており、10月31日までに7団体7品目（みかん、柿、桃、いちじく、ほうれん草、ネギ、米）を認証しています。現在、柿やみかん等が全国へ出荷されていますので、“おいしさ”と“安心”をご賞味下さい。
- ・携帯サイト「まるかじり和歌山」では農産物の生産情報など、和歌山の「いま」を発信しています、掲示板も設置されており、生産者と消費者、双方向のコミュニケーションを実現しました。

認証マーク（2種類）



●秋以降の県産農産物等の海外プロモーション

・和歌山県農水産物・加工食品輸出促進協議会では、本県の主力農産品である柿、みかんの出荷時期に合わせ、海外での販路拡大を目指し、海外プロモーションを実施します。

見本市への出展

○シアル 2008 への出展

実施日 平成20年10月19日(土)～23日(木) 5日間
 場所 フランス パリ ノール・ヴィルパント見本市会場
 出展内容 1ブース、12社、29アイテム
 (清酒、梅酒、梅干、梅関連商品、醤油、酢、あんぽ柿 等)

○ FHC China 2008 への出展

実施日 平成20年12月 4日(木)～6日(土) 3日間
 場所 中国 上海新国際博覧中心
 出展予定 1ブース、3社程度、竹茶、梅干等

海外フェアの開催

- 「タイ 柿フェア」(バンコク伊勢丹) ……柿
- 「香港 和歌山フェア」(YATA一田百貨店)…柿、みかん、あんぽ柿、梅干、お茶、竹茶、調味料
- 「シンガポール 和歌山フェア」(伊勢丹スコッツ店)…柿、みかん、加工品
- 「マレーシア 和歌山フェア」(クアラルンプール伊勢丹KLCC店)…みかん、加工品
- 「台湾 和歌山フェア」(太平洋崇光百貨店)…みかん、加工品

●クエの稚魚を放流

・高級魚クエの増産を目的に、県農林水産総合技術センター水産試験場ではクエ種苗の安定生産技術開発について取り組んできました。その結果、平成20年度は約40,000尾のクエ稚魚を生産し、県内各地に11,000尾の稚魚を放流しています。



農林水産総合技術センター水産試験場 (串本町)



水槽内のクエ稚魚

・近年クエの漁獲量は減少傾向にありますが、同試験場では平成19年度よりクエの増産を目的に、種苗の安定生産技術開発に取り組んできました。平成20年度は飼育水槽内の水流



生後90日目のクエ稚魚

の動きや初期餌料に技術的な改良を加え、6月上旬から飼育を行った結果、約60日間の飼育により平均全長24～28mmの稚魚約40,000尾を生産することができました。9月末から10月上旬に11,000尾の稚魚を県内の漁協に配布し、中間育成を行った後に放流しています。

● 東京大学構内に紀州材を使った『森の未来』を大きく変える建物が完成 ～ 11/19 オープニングイベント開催 ～

・東京大学構内に木造ブロック積層工法を用い、紀州材をふんだんに使って建築した「東京大学くうかん実験所」が完成しました。

・木造ブロック積層工法とは、材を小ブロック化し現場で積み上げられる、施行が容易な画期的且つ新しい工法です。

・この工法で使用する木材は断面が小さくてすむことから、小径木（間伐材等）を有効利用することができる反面、木材を積み上げることから、木材の圧縮に対しての強度が必要となりますが、このような特徴を有する木造ブロック積層工法には、材の圧縮や曲げに強く、色や香りが評価されている“紀州材”が最適であり、“紀州材”の長所が活かされることから、本県のトーキョー・プロモーション推進プロジェクト事業を活用し、10月末に完成し記念イベントが開催されることとなりました。

・仁坂知事は、紀州材の課題は間伐材をいかに利用することであり、「実用化すれば効果が大きい」と、この「くうかん実験所」の取り組みに期待しています。



● 第2回国際シンポジウム「コメと疾病予防」開催

・コメの有用性を総合的な観点から捉え、世界に発信しようと、国際シンポジウムが和歌山市内で開催されました。（10月25日～27日）

・谷口元和歌山県工業技術センター化学技術部長と築野食品の研究により、米糠を原料にその製造に成功した「フェルラ酸」や他の米の成分を使っていかに健康を守るか、これを世界に問うてみようというのが今回のシンポジウムの目的でもありました。シンポジウムの期間中、世界各国や全国から多くの方々が集まって熱心な討議が行われました。

*米糠を原料としたフェルラ酸の製造方法を確立し、平成15年に井上春成（いのうえはるしげ）賞を受賞された谷口元化学技術部長と知事の対談については、県庁ホームページの「名人対談」の中に載っていますので是非ご覧下さい。

● 本県への企業立地件数が47件になりました！

・この度、下記の企業（2件）が立地することとなり、知事就任以来の企業立地件数が、47となりました。

①大阪府河内長野市に本社がある旭精機（株）の橋本市への新工場立地が決定し、進出協定を締結することになりました。現在、河内長野市で操業していますが、業績の伸展・拡大に伴い生産能力の増強が必要となってきたため、橋本市へ新工場の建設（全面移転）をすることになりました。

②（株）しんこう技研が更なる事業拡大に向けて、紀の川市内で工場を増設することになりました。同社は、精密板金加工について設計から塗装までの一貫生産体制を構築することにより、確かな技術力で大型製品をコンスタントに生産し短期納入する能力があることから、工作用機械メーカーとの取引が拡大しています。

●第5回親と子どものためのきらめき“夢”トーク、北京オリンピック銀メダリスト湯元健一選手、湯元選手の恩師である和歌山北高校 森下浩先生、テレビ和歌山の笠野衣美アナウンサーを迎え、3人によるトーク形式で開催

・様々な分野のオピニオンリーダーを招き、講演と参加者とのトークを交えた第5回「きらめき“夢”トーク」を和歌山市内で開催しました。

・最初に湯元選手から、北京五輪で「銅メダルを獲得した瞬間の感動」や「和歌山の応援を背中に感じ、力が湧いてきた」というエピソードが紹介されました。また、「レスリングに集中して打ち込めたのは、両親の支えがあったからです。」と両親への感謝の気持ちが語られました。

・続いて、オリンピックという高い目標に向かって、「努力は必ず報われる」と信じて練習を重ねたことを通して、何事も前向きに考えていくことの大切さが語られました。

・フリートークでは、参加した高校生から「スランプを克服する方法は?」「試合前に集中力を高める秘訣は?」など技術や精神力についての質問や「和歌山で彼女をデートに誘うとしたらどこに連れて行きたいですか?」などプライベートに関する質問が出されました。湯元選手は、どのような質問にも笑顔で答えてくれ、参加者は熱心に聞き入りました。

参加者：約300名



●「産学官連携」によるヘルシーなお弁当の開発！！

・和歌山信愛女子短期大学生活文化学科食物栄養専攻の学生15人が、“がんばるお父さんに食べてもらいたいヘルシーなお弁当”をテーマに株式会社セブン-イレブン・ジャパンと県産品を使用したお弁当の共同開発に取り組み、この度、お弁当が販売されました。

・なお、共同開発されたお弁当は、メタボリックシンドロームを意識されている方にも安心してお召し上がりいただけるよう、和歌山県が定めた「食育応援弁当」（メタボリックシンドロームを意識した基準）を満たしたものとなっています。

・今回の開発は、「消費者が求める商品を提供する」という発想のもと、消費者と民間事業者との対話を軸にした共同商品開発を推進するため、県が実施している「わかやま産品パートナーズ制度」に基づいた初めての取り組みです。（県内のセブンイレブンにて販売中）





紀伊山地の霊場と参詣道

熊野古道 中辺路ルート 完歩スタンプ の整備について

中辺路ルート全てにスタンプ押印所を整備しました。
これにより、来訪者へ参詣道全ルート踏破への動機付けを促し、来訪者の増加やリピーター化、長期滞在化へとつなげていく環境を整備しました。
中辺路ルート全てで36カ所の押印所は？



既存の20カ所に加え、新たに大雲取越、小雲取越、川の古道、高野坂、浜の宮王子～熊野那智大社16カ所を整備し、合計36カ所になりました。

「熊野古道中辺路押印帳」を手に入れるのは？

- ◆ 県内各所（中辺路町観光協会、熊野本宮観光協会、新宮市観光協会、那智勝浦町観光協会、熊野古道館、熊野本宮語り部の会）での販売＜定価100円＞
- ◆ 田辺駅前観光案内所、滝尻茶屋、霧の郷たかはら、道の駅熊野古道中辺路、道の駅奥熊野古道ほんぐう、発心門休憩所、川舟センター、ホテル浦島、ホテル中の島、大門坂茶屋等でも近日販売予定
- ◆ WEB ～ 観光協会HPから申込書ダウンロード（近日中）
- ◆ 申込書配置～わかやま喜集館、名古屋観光センター配置予定。

熊野古道 中辺路ルート 完全踏破証明書の発行

36カ所すべてのスタンプを押印された方に、完全踏破証明書の発行。
→抽選で、和歌山県内の温泉旅館・ホテル宿泊券等をプレゼント。



熊野古道 中辺路ルート完全版 完歩スタンプPR

近畿・東海圏：紀州浪紀州浪漫（冬号）に記事を掲載し、JR主要駅配布

関西圏：民放ラジオでプロモーション

熊野：来年1月～「中辺路完歩スタンプ整備記念熊野古道健康ウォーキング」

和歌山、三重、奈良の三県連携による熊野古道キャンペーン



三県のスタンプ整備を記念して、三重、奈良、和歌山の三県連携によるスタンプラリーを実施します。これにより熊野古道ウォークへのきっかけづくり及びリピーター化・長期滞在化を推進します。

主催：熊野古道「祈りの聖地を歩く」キャンペーン実行委員会
問い合わせ先：073-441-2374（事務局：和歌山県地域づくり課）
期間：平成20年10月1日（水）～平成20年12月31日（水）

～ 万葉の地 紀三井寺 和歌の浦 和歌山市 ～

紀三井寺 (名草山)

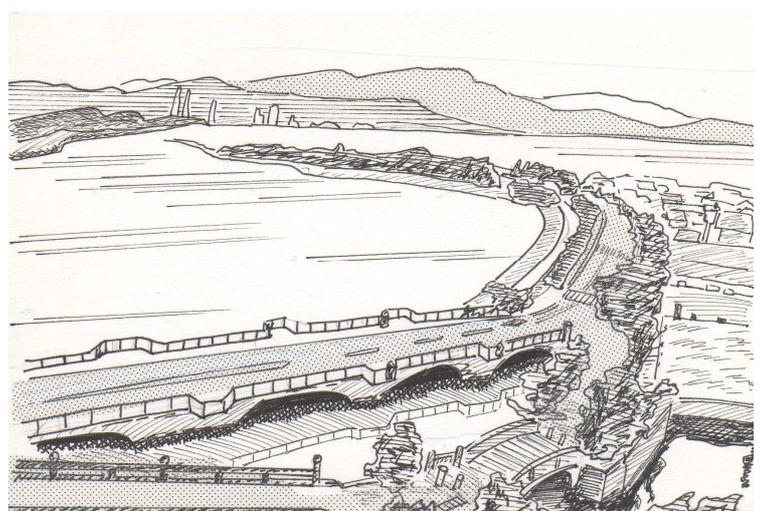
万葉集にも登場する名草山。和歌浦の対岸にある古くからの代表的なゆったりした山（標高230m）です。紀三井寺はその名草山の中腹にあります。なぜ紀三井寺という名か？というのと、寺の山内に「吉祥水」「楊柳水」「清浄水」の三つの井戸があって、「三井寺と呼ぼうとしたのですが、近江にある三井寺と区別するために、「紀」の字を付けて「紀三井寺」となったのです。

紀三井寺は、西国33箇所第2番札所。桜の名所でもあります。230段余りの石段を上がると、和歌浦や淡路島、晴れていれば四国まで見ることが出来ます。

和歌の浦

奈良・平安の昔から人々が訪れた和歌浦。万葉集や日本書紀には「若ノ浦」「弱（わか）の浦」と記されていましたが、聖武天皇は、その美しい景観に「明光（わか）」の字を当て、その後「和歌浦」と書くようになりました。

和歌浦湾に浮かぶ小島、妹背山。山上に多宝塔があり、紀三井寺の拝所として建てられたという観海閣（かんかいかく）もあります。中国の名橋（六橋）をモデルに造られたという石の橋、三断橋。妹背山と玉津島神社の間にあります。神社後方の奠供山（てんぐやま）は聖武天皇が、ここから和歌浦の景勝をご覧になり、神々に奠具（祭器）を供したことから名付けられました。



昔からの和歌浦に対して、新和歌浦は明治43年森田氏が私財を投じて、トンネルを開き、道路を広げた後、名所として発展しました。

番所庭園 (ばんしょていえん)

番所というのは、藩政時代、黒船の見張り番所が置かれていたところ。現在では庭園になっています。雑賀崎から西、鼻のように突き出していることから、番所ノ鼻と呼ばれます。

和歌山市ホームページ <http://www.city.wakayama.wakayama.jp/>

～編集後記～

【三毛猫たまの出世物語】

たま駅長の騎士（ナイト）称号授与については、本編「県政トピックス」で紹介しましたが、「たま駅長」についてあまりご存じでない方のために少し補足いたします。

元々たま駅長の母親は、たまを身ごもった身重の体で貴志駅の売店（小山商店）に住み着いたホームレス三毛猫でありました。

一方、物語の舞台となる貴志駅がある貴志川線は、乗客の減少から赤字運営を余儀なくされていましたが、岡山県を中心に公共交通事業を行っている両備グループが、南海電気鉄道から経営を引き継ぐこととなり、和歌山電鐵が設立されました。

時は2006年4月1日、開業記念式典を終えた和歌山電鐵社長の小嶋氏が、成長したたまの姿を見て、駅長姿が脳裏にひらめいたのがそもそものたまの出世物語の始まりであります。たま駅長就任の話題は多数のテレビニュースや新聞でも取り上げられ、たま駅長目当ての乗客が日本各地から貴志駅を訪れるようになりました。2007年1月の就任以来の1年間で、たま駅長による和歌山県への観光客増加などによる経済波及効果が、11億円に達したとする関西大学の研究結果が発表されました。こうしたことから、就任1周年の2008年1月5日をもって駅長から「スーパー駅長」（課長職相当）に昇進し、また、人間社会の中の猫を取り上げたフランスのドキュメンタリー映画「人間の鏡としての猫」に日本の猫・職業を持った猫として紹介されました。

県としては、こうした和歌山電鐵のユーモアあふれる取り組みと「たま駅長」の地域に対する多大な貢献に対して、感謝状の贈呈を考えておりましたが、知事のアイデアにより、ユーモアに富んでいて、かつ何か名前が残るようなものということで、貴志駅の貴志と騎士（ナイト）をかけ、「和歌山県勲功爵（わかやまでナイト）」の称号を贈ることになりました。読者の皆様におかれましては、お子様連れで和歌山へお越しの折には、是非貴志駅にお立ち寄り下さい。

それから「ふるさと和歌山応援寄附」についてですが、「ふるさと納税制度」が開始されて以来、沢山の方々から篤いご支援を賜り誠に有り難うございます。寄附の中には、関係者一同が驚愕してしまうほどの高額寄附の申し込みを頂いた方もございますが、寄附して下さった多くの方々のメッセージを拝見しますと、故郷を思う熱い思いがひしひしと伝わってきます。

そうした皆様の期待に応えるべく、知事を筆頭に職員一丸となって和歌山をもっともっと良くするよう精一杯頑張っておりますので、ご支援のほどよろしくお願ひします。ちなみに本年分のふるさと寄附の受付は12月までとなっております。

知事室秘書課長 鈴木敏彦

★「和歌山だより」Web版は和歌山県ホームページでご覧頂けます。Web版ならではの美しい画面をお楽しみ下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

（下記のFAX（様式自由）、E-Mail等でお願ひします。）

■FAX 073-422-4032

■ E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



平成20年（2008年）11月 NO.8

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022